

# まちと海の一体感を 生むために求められる つながりのある景観

博多湾水際ウォッチングー中央・博多部

博多ふ頭、中央ふ頭を中心とした都心部に一番近い港。

旅やコンサート、食事など昼夜を問わず人々が集う。

しかし隣り合うふ頭同士の、

隣接するまちと港の、つながりが乏しい。

もっと人々が港を身近に感じ、

自由に使いこなせる工夫が求められている。



「中央ふ頭」には国際ターミナルやマリネッセ福岡と隣り合うように3棟の高度化倉庫が立ち並ぶ。



10:10 東浜ふ頭を通ぎると、見慣れた景観が開けてきた。大型客船が接岸する国際旅客ターミナルやコンサートなどが行われるマリネッセ福岡が立地する中央ふ頭だ。カエルの目のような特徴ある外観をシンボルにしたターミナルには日本一を誇る年間20万人もの国際旅客が行き交う。国際旅客ターミナルとして、税関・出入国管理・検疫などの施設はもちろん、レストランや展望デッキ、会議室なども備えている。また、国際ターミナルの背後には

企業の名前がしるされた新しい倉庫が並ぶ。中央ふ頭は国際交流の拠点化を進めるとともに物流拠点としての機能も充実しつつあるのだ。その代表的なものが3棟の高度化倉庫である。高度化倉庫は従来の倉庫機能に加えて、最新の設備やシステムを導入し物流の合理化・効率化を図ったもの。オフィスビルのような小綺麗な倉庫が誕生し、中央ふ頭の新しい表情を作り出している。



昼も夜も人々にぎわうベイサイドプレイスを中心とする「博多ふ頭」。隣接する「中央ふ頭」とのつながりある景観が求められる。



すぐ近くののちにまちが見えませんが、天神から海が遠いなあ、という印象を受けます。逆に福岡は海がすぐ近くにあるまちだったんだとあらためて思います。もつと海を身近に感じられるようなアビールをしてほしいですね」

段原「ああ、もしかしたら都市高速が景観の妨げになっているのかもしれないよ。交通の利便性が福岡の今の発展に大きく貢献しているわけですが、海からも陸からも人々の視界を妨げるような形になっているような気がしませんか。あらためて機能と景観の両方を追求することの難しさを感じます。また、空港が近くにあるせいかと思いますけど、海から福岡のまちを見ると高層ビルがなく平たんな感じがして、これといったつかみどころのない眺めになっていますよね。だから都市高速が余計に気になるのかもしれない」

10:15 中央心頭に隣接する博多心頭の上陸。ここはベイサイドプレイスの愛称で知られている場所だ。志賀島や長崎の離島などへの船が発着する渡船場に加え、レストランやショップ、ボードウォークなどを設け平成3年に完成。博多港では市民に開かれた港として先駆的なスポットとなった。

長谷川「ここができたことで以前と港の見え方、使い方が変わってきたと思います。ベイサイドプレイスのアクセサがもつと便利になればいいなとも思いますが、それから隣のマリノメッセ福岡や国際ターミナルとのつな

がりが見親にも人の流れにもないような気がします。中央心頭は目と鼻の先だから、もつと人が行き来できるような仕組みができればいいのに……」

出口「そつですよね。博多心頭と中央心頭全体に回遊性がないのが残念。一体的な整備を進めれば景観にもつながりがでてくると思います。今後の課題ですね」

10:30 再び乗船。多くの利用者を乗せた香崎行きの高速船「ヴィーナス」の出航を見送り、西へ針路をとる。どことなく懐かしさを醸し出すタワーが見えている。昭和39年に建てられた高さ103mの博多ポートタワーには港に出入りする船の動きを他の船に教える無線局「博多港国際VHF海岸局」があり、船の安全を見守っている。博多ポートタワーを過ぎると、倉庫が集まる心頭が突き出す。1時間に400トンの穀物を吸い上げるニューマチックアンローダーや大規模なサイロなど最新の荷役機械や保管施設が林立する須崎心頭だ。素っ気ないようにも感じるが、アメリカ・カナダ・オーストラリアなどからの輸入穀物を扱う流通基地として重要な役割を果たしている。心頭の奥にある博多漁港の船着場にはト口箱が高く積み重ねられ、早朝の活気あふれる鮮魚市場の様子がうかがえる。この一帯はまさに食の供給地として福岡の台所を支えているのだ。



海辺に沿って延びる都市高速道路。都市機能を支える重要な役割を担っているが、景観的には視界の妨げになっているという問題点もある。



穀物流通基地として活躍する「須崎心頭」。大型の荷役機械や倉庫など無機質な印象を受ける施設が林立する。